

新研修制度をどう受けとめているか？

- ・厚生労働省を、とても恨んでおります！
- ・しかし、新しい研修制度そのものは評価している
プライマリケア修得、給与確保など優れた面
もとの卒業即専門研修に戻したいとは思わない
当面は、この制度の中で頑張るつもりだ
- ・隠れていた問題をいっきよに浮き彫りにしてくれた
産婦人科医の処遇改善に取り組んでいきたい
若手医師のリクルートでは我々自身が努力する
- ・地方大学では、若者の都会志向に苦悩している
地方大学が若手医師を確保できるシステムを
卒業前に専門診療科を考えるシステムを

新たな問題：ローテーション研修の欠点

- ・将来の専門性が定まっていないので、モチベーションを保てない研修医もいる
- ・ローテーションで3か月毎に初心者に戻るため、うつ病の研修医が急増！（筑波大学、前野先生）
→信大では、センターに”研修医のお母さん”、
チューターも相談にのって、メンタルヘルスケア
- ・“後期”研修という誤った用語・・・医師は生涯研修
- ・「専門研修も大学離れ」という事態を招きつつある
- ・一般臨床研修病院だけで研修し、一人前になった
ような錯覚をおこす
→若手医師全体のレベル低下が危惧される

あなたの奥様が卵巣癌と診断されたら？

- よく名のおった、実力のある専門医に精査と治療を依頼するでしょう！
- そのような医師はすべて大学病院中心の臨床研修で鍛えられてきました
- 大学病院での研修を全く経験しなかった医師にかかりたいと思いませんか？
- 大学病院のもつ実力が、一般病院よりもはるかに勝っていることは明白です
- 世界中で、“大学離れ”を起こすような臨床研修制度を押し進めている国はありません

新医師臨床研修制度について

- (1) 産婦人科と国民に何をもたらしたか？
- (2) 産婦人科は何をしているか？
- (3) 産婦人科はどう考えているか？
- (4) 今後どのような方向が望ましいか？

美ヶ原高原 (Shinichi Sasaki)

あくまでも私見ですが、真剣です！

- ・大学病院を抜きにして、厚生労働省と一般臨床研修病院が進めてきた ゆがんだ形（“臨床研修研究会”）を本来の姿に戻すことが非常に重要である
- ・このねじれの被害者は、若手医師そして国民（患者）であり、このままだとさらに悪化する可能性がある
- ・地域医療における医師確保のために、また今後の日本全体の医療レベル低下を防ぐために、
- ・厚生労働省と大学病院が密に連携して“大学病院を中心に据えた若手医師の臨床研修システム（初期研修—専門研修）”を、本気で作っていく時期が到来したのではないか！

私たちの研修プログラムの概要

- 真にプライマリ・ケアの実力を身につける
 - 信州大学と関連病院の良さを最大限に生かす
 - 将来の専門領域を考慮したプログラムが可能
 - 研修医の多様な要望に対して丁寧に答える
 - 2種類のプログラムを用意した！
- (1) 信州大学と長野県内関連病院の統一研修プログラム（60名）
 - (2) 信州大学医学部附属病院の初期臨床研修プログラム（30名）

信州大学と長野県内関連病院の 統一研修プログラム(1)

- 県内19の関連病院と共同して研修システムを構築
- 大学と第一線病院のそれぞれの長所を生かして、両者を組み合わせた理想的な研修である
- 1年目を大学/2年目を関連病院で、または、1年目を関連病院/2年目を大学で研修する(希望どおり)
- 1年目は内科6か月、外科3か月、選択3か月
- 2年目は救急3か月、小児科3か月、産婦人科・精神科・地域医療3か月、選択3か月
- いずれの年も3か月間は診療科を自由選択でき、将来の専門領域に資することができる

信州大学と長野県内関連病院の 統一研修プログラム(2)

- 県内19の関連病院は
長野赤十字病院、長野市民病院、北信総合病院、飯山赤十字病院、県立須坂病院、長野松代総合病院、篠ノ井総合病院、市立大町病院、安曇野赤十字病院、波田総合病院、国立病院機構松本病院、県立木曾病院、国立病院機構長野病院、小諸総合病院、諏訪赤十字病院、岡谷市立病院、伊那中央病院、昭和伊南総合病院、飯田市立病院
- 関連病院の選択では、できるかぎり研修医の要望に答えています

信州大学と長野県内関連病院の 統一研修プログラム(3)

- いずれの病院も教育熱心な指導医をそろえている
- 大学と関連病院を結ぶネットワークを利用して、共通の遠隔セミナー、講演会、CPCを行っている
- 毎週金曜日のクルズスは実地診療にとても役立つ
- 全研修医が救急蘇生技能コース(ICLS)を修了する
- 研修評価は全国共通のEPOCを使用し、“研修管理委員会”が修了証書を発行する
- 実績は、平成16年度40名、平成17年度48名、平成18年度39名、平成19年度41名であり、近隣県と比較すると最多数が参加している

信州大学医学部附属病院2年間の 臨床研修プログラム(1)

- 研修医の多様な研修目標に対応し、研修医一人ひとりが自分自身のプログラムを構築できる
- 2年間信大病院に所属するが、希望により、内科および外科の院外研修(3か月間/年)も可能である
- 学生に「卒業までに将来の方向をよく考えて、できれば卒前に確定してもらいたい」と訴えている
- 1年目は希望診療科3か月、残り9か月を、内科系診療科、外科系診療科から自由選択して研修する
- 2年目は救急3か月、小児科・産婦人科・精神科・地域医療合わせて4.5か月、残り4.5か月は自由選択